こんなところに
仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

鬼畜（きちく）

鬼畜〇〇というと現在では使うこともためらうような、相手を罵る言葉として用いられます。また、残虐な行為を行った人を鬼畜とも言います。

鬼畜は元々二つの言葉が合わさったものです。「餓鬼」と「畜生」の二つです。いずれもこの世の行いによって生まれ変わる六道輪廻の特に下位に属します。

「餓鬼」とは、貪欲であれがほしいこれがほしいと相手の迷惑も顧みずに過ごしていたものが落ちる世界です。ひたすら飢えや渇きの苦しみを味わいます。

「畜生」とは、理性を失い本能のままに過ごしていたものが落ちる世界です。人間以外の動物に生まれ変わり、家畜のように人に害されることに怯え、互いを食い散らかすことを繰り返します。

餓鬼が次第に痛みに耳を貸さない悪鬼としてのイメージが強くなり、畜生の理性を失う部分が協調され、いつのころから二つの言葉が合わさり「鬼畜」という言葉が生まれました。

「鬼畜」の所業は他人事ではありません。縁が整えばいつだって自分にも可能性があるのです。

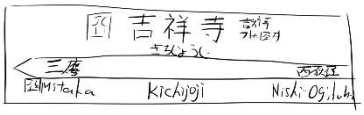
「お父さんゆっくり食べなさい」
そういう娘のあごにご飯粒
若狭恥

吉祥（きっしょう）

住みやすい街、学生の街としても有名な吉祥寺。吉祥寺には名の通り吉祥寺があるかと思いきや存在しないのです。正確に言うと現在はないのです。では、いつあったのかというと江戸時代に遡ります。江戸の大火事によって、吉祥寺は焼失し、区画整理によって駒込へ移転となります。玉川上水開通で跡地の開墾がなされ、村人たちが戻る際、吉祥寺への愛着から吉祥寺村と名付けられました。

そもそも吉祥とは何かといいますと、インドのラクシュミーという繁栄の女神が仏教に取り入れられた天です。仏教では竜王を父とし、鬼子母神を母とし、毘沙門天を夫としました。五穀豊穣を願う際に吉祥悔過といわれる法要が古代より薬師寺で営まれてきました。

また、吉祥はめでたい事がおきる前兆という意味もあり、お釈迦様がさとりを開かれる際、吉祥という子供が吉祥草で編んだ莫蓙を捧げ、その上に座られたという話も残っています。



江戸初期の村人たちの思いが残した吉祥寺は、今も子育て人口が多い街として人を育てています。